

大通及びその周辺のまちづくり方針

－札幌都心はぐくみの軸強化方針－

【概要版】 令和5年（2023年）10月

この方針は、大通及びその周辺の将来像や取組の方向を明確にし、市民・企業・行政などで共有し、協働でまちづくりを展開していくための方針です。

第1章 目的と位置づけ

方針策定の背景・理念・目的

策定の背景

① 都心まちづくりの骨格構造の強化

⇒はぐくみの軸は、南北に走る他の骨格軸等を東西に貫き、都心まちづくりを面的につなぐ極めて重要な役割を担う

⇒はぐくみの軸の展開指針の実現が必要

② 札幌を取り巻く環境の変化

（人口減少・超高齢社会、地球環境問題、災害対策、建物更新時期の到来、北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業、感染症拡大等）

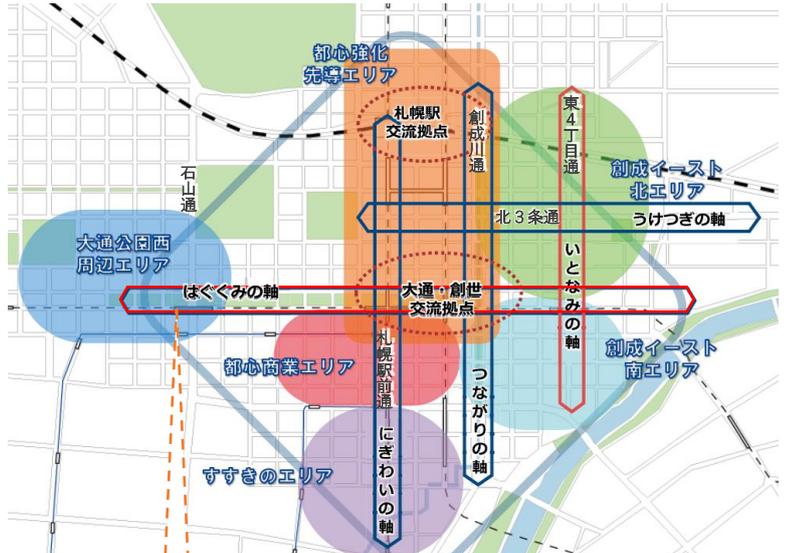
⇒社会情勢の変化に合わせた都心まちづくりが必要

③ 札幌都心のレガシーを活かした次の100年のまちづくり

⇒札幌は2022年に市制施行100周年を迎えた

⇒札幌のまちが次の100年も魅力と活力を持ち続けるため、約150年前に整備された大通の、都心のレガシーとしての価値の継承と新たな価値の創出が必要

第2次都心まちづくり計画（H28.5札幌市策定） における都心の骨格構造とターゲットエリア



はぐくみの軸 まちづくりの理念

象徴性の継承と新たな価値の創造

150年の歴史ではぐくまれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”

はぐくみの軸の展開指針

- 沿道の特性に応じたみどりの空間と活用空間のメリハリのある空間の創出
- 沿道空間と一体となった中核的な公共的空間としての大通の実現
- 都心東西のエリアをつなぐ、札幌の都市文化、価値を体感できる空間の創出
- 創成川以西のにぎわいを創成川以東まで波及させる連続性のある空間形成など

策定の目的

- 都心の東西軸としての魅力を強化するため、開発の気運の高まりに合わせて強化方針を策定し、**大通公園などの地域特性を活かして大通及びその周辺のまちづくりを促進**していく。
- そして次の100年に向け、時代の流れに柔軟に対応しながら新たな価値を創造し続け、**札幌市民が世界に誇れる、魅力と活力にあふれる札幌都心の実現に寄与**することを旨とする。

対象期間

策定から20年間（2023年～2042年）

※次の100年を見据えた最初の20年間を対象期間とする

対象エリア

- 札幌市資料館から豊平川辺りまでを東西に貫く東西約2.5km、南北約350mのエリア
- 南北は大通沿道の概ね1ブロックまでの範囲も含む

：対象エリア



第2章 はぐくみの軸を取り巻く現状・課題

- ・ 「都心まちづくりの基軸」の役割を果たしてきたレガシー
- ・ まちの「リニューアル」
- ・ 「大通周辺建物の機能分布」の変化
- ・ 「大通公園と沿道の一体感」の不足
- ・ 「人をひきつけ、住み続けたいくなる魅力」の創出
- ・ 国内外からの投資を呼び込む「札幌都心ブランド」の確立
- ・ 「多様化」するライフスタイルやニーズへの対応
- ・ 「エリアマネジメント活動」の展開
- ・ 「文化的価値」の保存と活用
- ・ 地域特性に合わせた「まちづくり方針」の必要性



明治末頃 大通公園

- ・ 地上・地下の「回遊性が高い」エリア
- ・ 大通公園の「景観・観光資源」としての価値
- ・ 「都心の魅力」を高めるみどり
- ・ 「はぐくみの軸ならではの景観」の形成の必要性
- ・ 大通公園周辺の「自動車交通量の減少傾向」
- ・ 「高齢者人口」の増加を見据えたまちづくり
- ・ 「オープンスペースと連動」したまちづくり
- ・ 「生涯健康」で活躍できるまちづくり
- ・ 「安全・快適な交通環境」の形成

- ・ 「まちづくりと連動した脱炭素化」の必要性
- ・ 「災害に強い」まちづくり



北海道胆振東部地震時のブラックアウト

重視すべき視点

現状・課題・情勢などより抽出した上記視点を3つの分野に分類し、内容を要約してまとめ、今後のはぐくみの軸のまちづくりにおける「**重視すべき視点**」として設定

象徴性の継承と まちの発展に関連する分野

- ・ 今後も「都心まちづくりの基軸」としての役割を担っていく
- ・ 時代に合わせたまちづくりを進め、市民がはぐくみの軸を札幌ならではの貴重な財産として、より愛着を感じられるよう魅力を高めていくことが必要
- ・ 高めた魅力を国内外に発信し、活力・投資を呼び込んでいくことが必要

視点Ⅰ

市民の愛着の醸成と
魅力の発信

市民の暮らしに関連する分野

- ・ 高齢者人口の増加や、地方移住への関心の高まり、働く環境への意識の変化がある
- ・ みどりに囲まれ、誰にとっても安全・安心で居心地の良いはぐくみの軸ならではの都市空間を形成し、市民のより快適で豊かな暮らしを実現していくことが必要

視点Ⅱ

より快適で
豊かな暮らし

環境保全や 防災に関連する分野

- ・ 地球温暖化とこれに伴う気候変動など地球環境問題は日々深刻化している
- ・ 大地震や洪水といった自然災害への対応が求められていることから、はぐくみの軸の資源を活かした、環境にやさしく災害に強い、持続可能なまちづくりを進めていくことが必要

視点Ⅲ

持続可能な
まちづくり

第3章 はぐくみの軸全体の強化方針

目指すべき将来像と取組の方向

「現状・課題」、「重視すべき視点」及び、「はぐくみの軸 まちづくりの理念」を踏まえ、12の「目指すべき将来像」を設定し、将来像毎に将来像を実現するための「取組の方向」を整理

はぐくみの軸
まちづくりの理念

象徴性の継承と新たな価値の創造

150年の歴史で育まれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”

目指すべき12の将来像と 取組の方向

市民の愛着の醸成と魅力の発信

1 【象徴性の継承】



はぐくみの軸がもつ札幌都心の象徴性が継承されている

- a: はぐくみの軸周辺にある歴史的資源の価値を保存・活用する。
- b: 南北の回遊性向上や東西の軸性の強化を図る。
- c: 大通公園・大通・沿道建物を一体的な空間として捉えられるような機能配置や運用ルールなどの仕組みの整備を行う。

取組の
方向

2 【創造と交流の好循環】



はぐくみの軸ならではの文化・魅力・活力を創造することで世界から投資や人材などを呼び込む好循環が形成されている

- a: 公有地や低・未利用地の活用、既存の都市基盤施設・公開空地の利活用を図る。
- b: 地域の特性を活かして、まちの魅力を高める活動の促進や、建物の用途・機能の誘導を図る。
- c: 大通公園の魅力をさらに高める。

取組の
方向

3 【魅力あるライフスタイル】



はぐくみの軸らしい魅力あるライフスタイルが国内外に認識されている

- a: 四季を通じてだれもが利用できる大通公園との一体的な利用を意識した公共的空間を屋内外で創出し、日常利用の促進を図る。
- b: 建物用途や設えの工夫により、大通公園やまちに開かれた空間を創出する。
- c: 大通公園がもたらす日常の憩いとイベント開催などによるにぎわいの両立を図る。

取組の
方向

4 【協働によるまちづくり】



時代の流れに柔軟に対応した市民・企業・行政などの協働によるまちづくりが進められている

- a: 市民・企業・行政などの協働による実証実験を展開しながら、施策の検討を進める。
- b: 市民・企業・行政などの協働による活発なまちづくり活動を促進する。

取組の
方向

より快適で豊かな暮らし

5 【ユニバーサルなまち】



大通公園や大通沿道の公共的空間などが誰もが安心して利用できるユニバーサルな空間となっている

- a: 都市基盤施設を含む公共的空間や建物などのバリアフリー化、利便性・快適性の向上を進める。

取組の
方向

6 【心身の健康増進】



訪れる人の心身の健康を増進させる環境が整っている

- a: どの季節にも歩きやすい環境を創出し、心身の健康増進のため活用する。
- b: 開発や建替に合わせて、大通公園の環境を建物内部に引き込む設えや、心身の健康増進に資する機能を導入する。

取組の
方向

7 【居心地がよく歩きたくなるまち】



街区・道路・公園の一体感がある居心地が良く歩きたくなるまちが形成されている

- a: 安全・快適な歩行者動線を確認する。
- b: 憩いやにぎわいの場としての道路空間の柔軟な活用を検討する。
- c: 居心地が良く、歩いていて楽しいと感じる空間形成を図る。

取組の
方向

8 【円滑な移動環境】



東西に長いはぐくみの軸を円滑に移動することができる

- a: エリア内を円滑に移動できる環境を整備する。

取組の
方向

9 【資源を活かした景観】



歴史的資源などを活かしたはぐくみの軸ならではの景観が形成されている

- a: 大通公園や周辺の歴史的資源、大通沿道の街並みとの調和を考慮した、一体感のある景観形成を図る。
- b: 屋外広告物の掲出にあたって大通沿道の景観に配慮する。

取組の
方向

10 【連続的につながるみどり】



大通公園を中心に連続的にみどりの空間が形成されている

- a: 周辺のまとまったみどりや大通公園とのネットワーク強化を図り、みどりの質と量を向上させる。
- b: 大通公園と沿道のみどりととの一体的な繋がりを創出する。

取組の
方向

持続可能なまちづくり

11 【都市の脱炭素化】



2050年のゼロカーボン都市の実現に向けた先進的な取組が進められている

- a: 建物の環境性能向上や、エネルギーネットワーク活用によるエネルギーの有効利用を図る。

取組の
方向

12 【防災機能の強化】



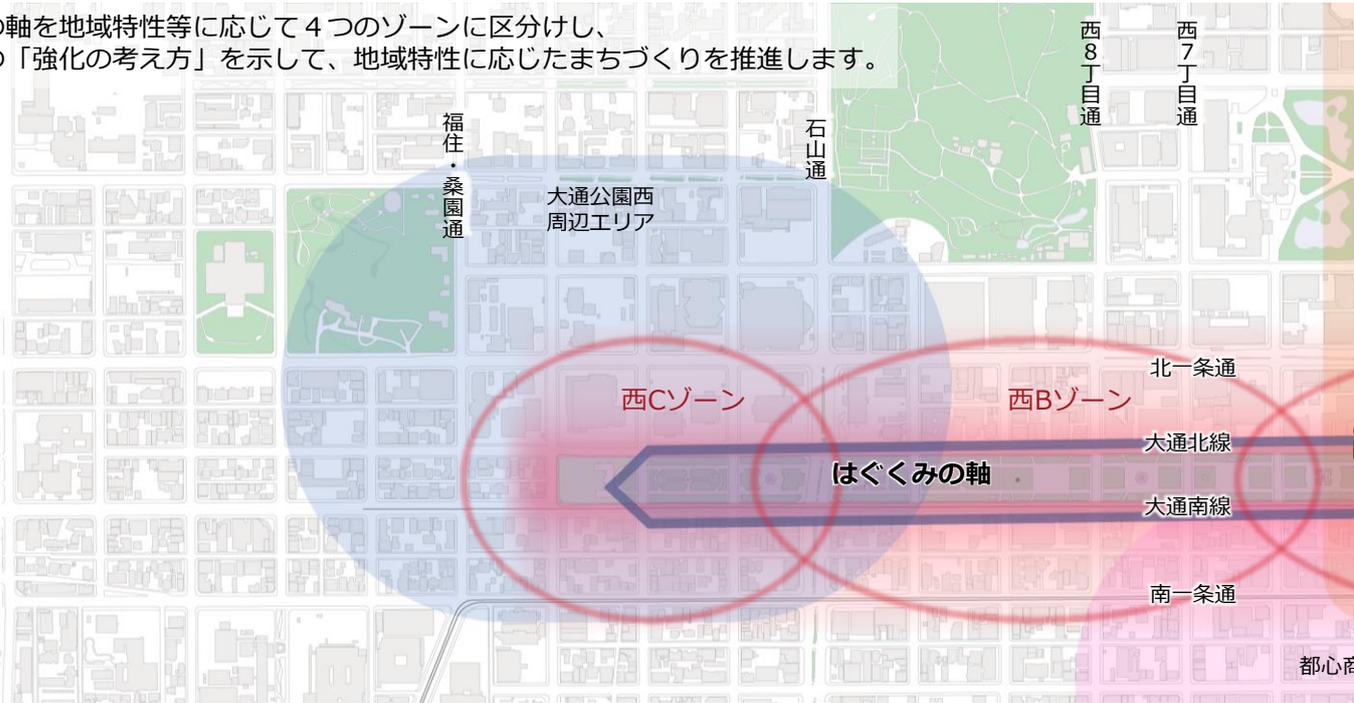
はぐくみの軸の防災機能が強化されている

- a: 施設の防災性能向上を図る。
- b: 地域主体の防災の取組を進める。

取組の
方向

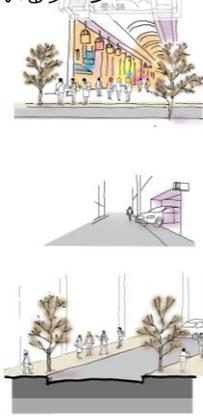
第4章 ゾーン別の強化方針

はぐくみの軸を地域特性等に応じて4つのゾーンに区分けし、それぞれの「強化の考え方」を示して、地域特性に応じたまちづくりを推進します。



西Bゾーン

大通公園の遊具広場は多くの子供達が利用。沿道にはオフィスや教育施設等が立地する等多様な土地利用となっているゾーン



強化の考え方

居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う
都心の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ

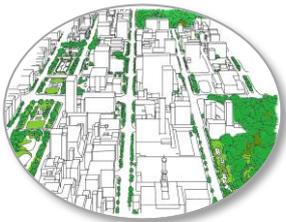


〈主な取組〉

- ・大通公園の在り方検討【象徴性の継承a,c】
- ・大通公園に面した街区らしい働き方ができ、多様な人材を引き寄せる創造的なオフィス環境の整備【創造と交流の好循環b】
- ・沿道建物低層部への賑わい機能の導入【魅力あるライフスタイルb】
- ・周辺の既存施設などとのつながりを意識した道路緑化の強化や新たなみどりの創出【連続的につながるみどりa】など

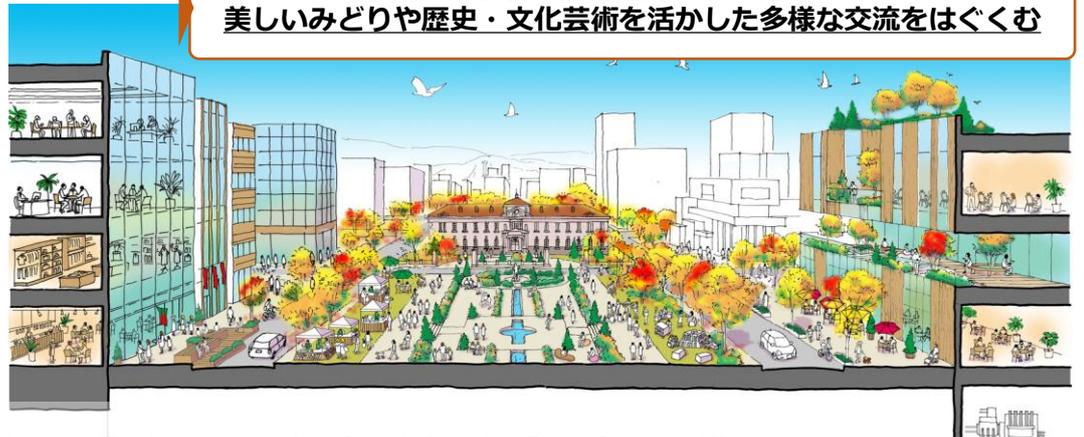
西Cゾーン

周辺に文化芸術施設・歴史的資源等が立地。地下鉄駅・路面電車停留所にも隣接しており、交通利便性が高いゾーン



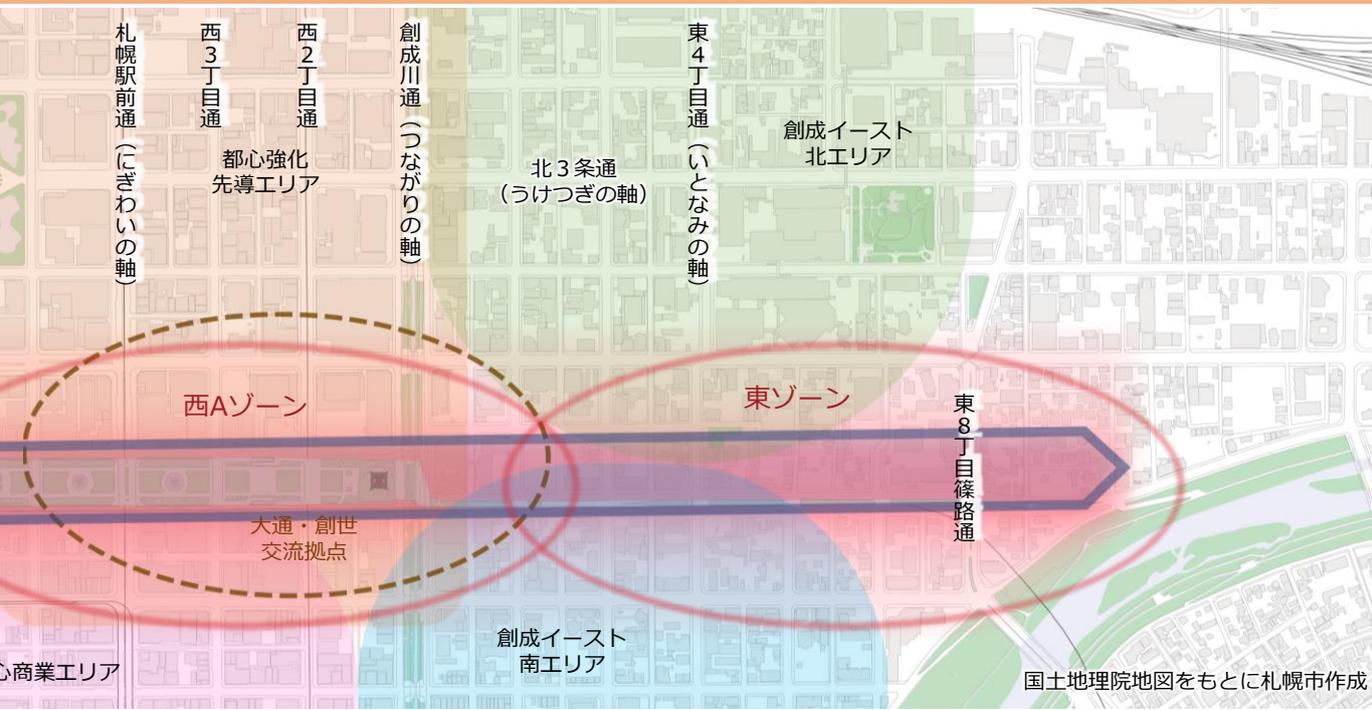
強化の考え方

都心西側の回遊拠点を形成し
美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ



〈主な取組〉

- ・北海道知事公館や北海道立近代美術館等の周辺のまとまったみどりを活かした都市空間の形成【象徴性の継承b】
- ・街並みや歴史的資源などと調和した建物外観デザインの工夫（札幌市資料館、大通公園のサンクガーデン、周辺の街並みなど）【資源を活かした景観a】
- ・立ち止まって休憩ができる場所の創出【居心地がよく歩きたくなるまちc】など



強化の考え方

はぐくんできた価値と新しい価値が融合した
世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ

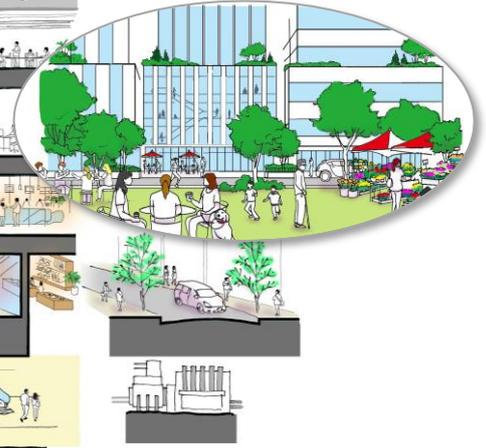


〈主な取組〉

- ・ 歴史的資源の保存と活用【象徴性の継承a】
- ・ 沿道建物から大通／大通公園までの空間を繋ぐ公共的空間の創出や利活用【象徴性の継承c】
- ・ 市有地の利活用による複数街区での連携開発と相互連携を通じた新たな象徴空間の創出【創造と交流の好循環a】
- ・ 新築建物における街並みと調和した建物の表情線の創出【資源を活かした景観a】
- ・ 大規模開発の機会を捉えた面的エネルギーネットワークの構築、拡充【脱炭素化の推進a、防災機能の強化a】など

西Aゾーン

「大通・創世交流拠点」を含み、都心の中でもビジネス・行政・商業といった都市機能の中心的役割を担っているゾーン



東ゾーン

強化の考え方

創成川より西側の活力を引き込み創成東地区の資源を活かした
創造性豊かな職・住・遊環境と人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむ

共同住宅の建設が進んでいる一方、公園などの公共的空間が不足しているほか青空駐車場といった低未利用地が多いゾーン



〈主な取組〉

- ・ 大通公園東側の新たな公共的空間の創出【創造と交流の好循環a】
- ・ 建替などに合わせた地上と地下の往来時の利便性の向上（地下の歩行者空間への接続箇所の新設、地上・地下出入口の建物への取り込みなど）【ユニバーサルなまちa】
- ・ 北海道新幹線の札幌駅までの延伸・開業を見据えた創成川より東側地域の回遊性向上を目的とした公共交通システムの検討【円滑な移動環境a】 など

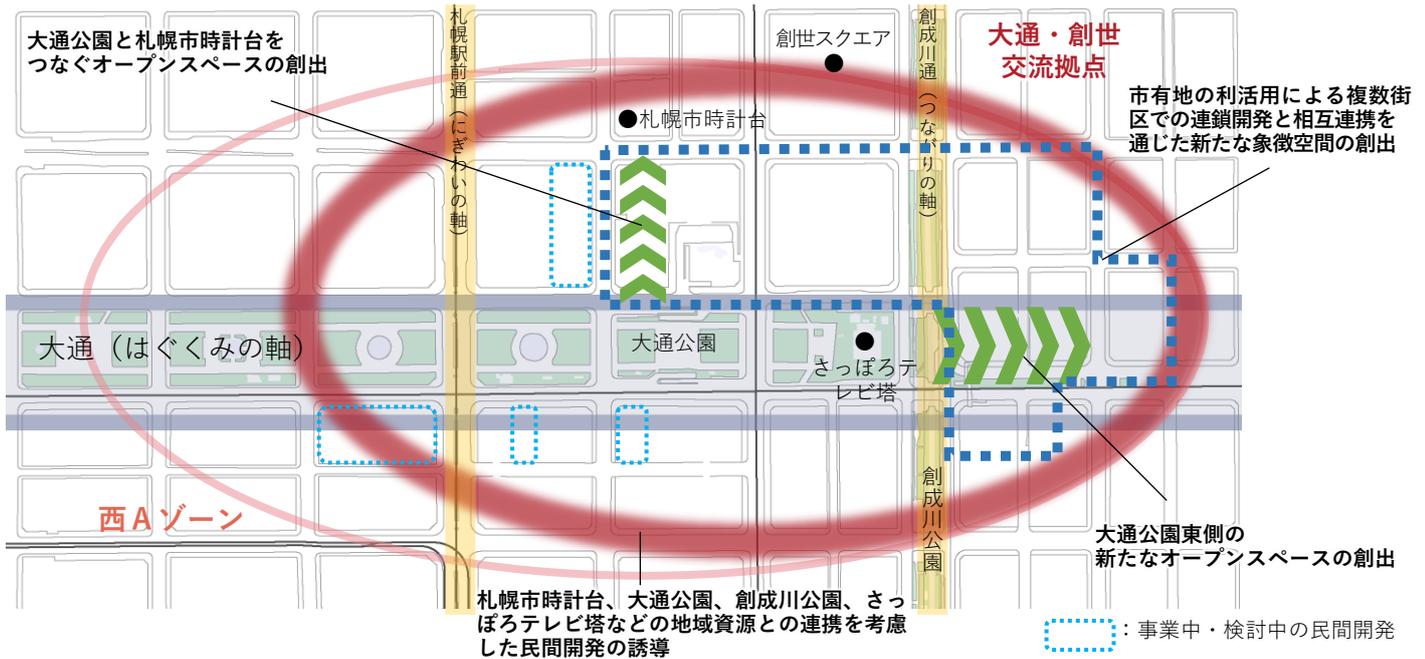
第5章 重点的に進める取組

1. 大通・創世交流拠点における象徴的空間の創出

- ・西Aゾーンでは札幌市時計台、大通公園、創成川公園、さっぽろテレビ塔などの地域資源が集積。札幌市役所本庁舎が立地する街区などの市有地も含まれる。
- ・周辺の環境を活かしつつ市有地の活用を検討し、民間開発と連動しながら、象徴的な都市空間を創出する取組を推進

〈当面の取組〉

- ・市有地の活用による複数街区での連鎖開発と相互連携を通じた新たな象徴空間の創出
- ・札幌市時計台、大通公園、創成川公園、さっぽろテレビ塔などの地域資源との連携を考慮した民間開発の誘導
- ・大通公園東側の新たなオープンスペースの創出
- ・大通公園と札幌市時計台をつなぐオープンスペースの創出



2. 大通公園を中心とした東西方向へのまちづくりの波及

- ・西Cゾーン周辺には北海道知事公館や北海道立近代美術館等の貴重なみどりがある。
- ・東ゾーンでは創成川より西側の活力を東ゾーンへつなげていくことが課題
- ・大通公園を中心とした東西へまちづくりの動きを波及させていく取組を推進

〈当面の取組〉

- ・大通公園西周辺エリアのまちづくりガイドラインの策定
- ・地域特性を踏まえたさっぽろ芸術文化の館跡地の利活用の検討
- ・創成川より西側のにぎわいを東側まで波及させる連続性ある空間の形成
- ・東4丁目通の整備に合わせた南北の回遊性の向上



西Cゾーン



東ゾーン



第5章 重点的に進める取組

3. 道路空間の利活用の検討

- ・大通公園の沿道の路上駐車等、大通公園側と沿道側の機能的な連携が不十分
- ・「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」が注目
- ・**官民協働で実証実験などを実施し、課題や効果などを慎重に検証しながら、道路空間の利活用を検討**

〈当面の取組〉

- ・市民・企業・行政などの協働による道路空間を活用した実証実験と必要な調査の実施
- ・実証実験を踏まえた施策の検討、推進



道路空間を活用した実証実験の様子



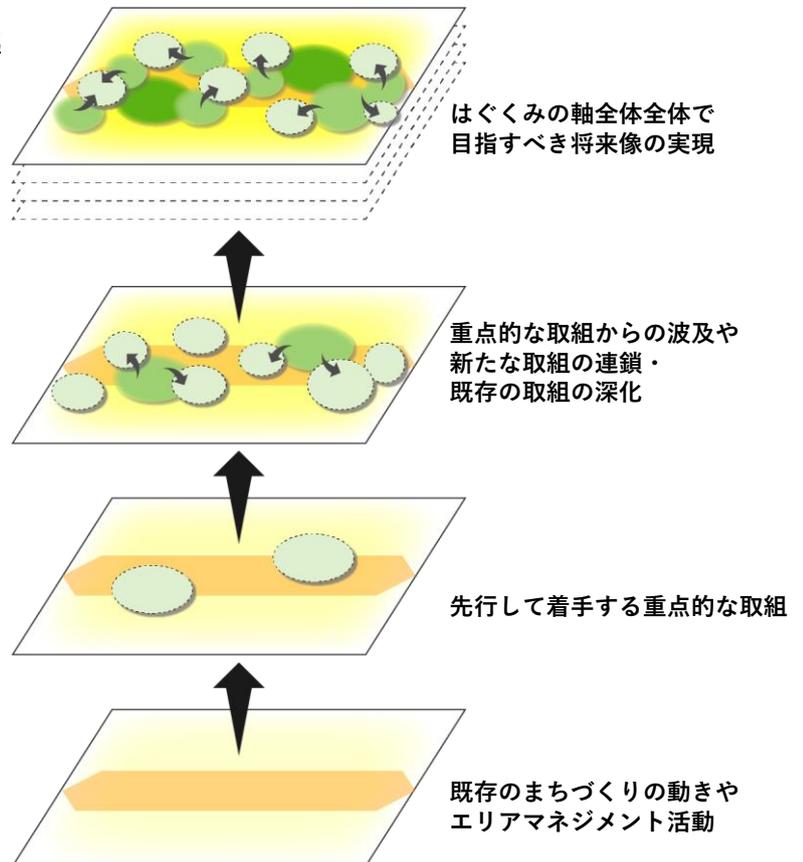
道路空間を活用した実証実験の様子

4. 地域の取組の連鎖

- ・はぐくみの軸の将来像の実現に向け、地権者が中心となったまちづくりなど、地域の特性を活かした取組が重要
- ・札幌市として、既存の取組の支援はもとより、**新たな地域の取組を醸成し地域のまちづくりを推進**
- ・地域の取組が**はぐくみの軸上で連鎖して展開**していくことで、将来像の実現を目指す

〈当面の取組〉

- ・地域主体のまちづくりの勉強会などの支援
- ・地区ごとのまちづくりルール策定に向けた誘導、調整
- ・地区ごとのまちづくりルールなどを踏まえた都市計画制度の活用
- ・本方針に沿った施策の検討、推進



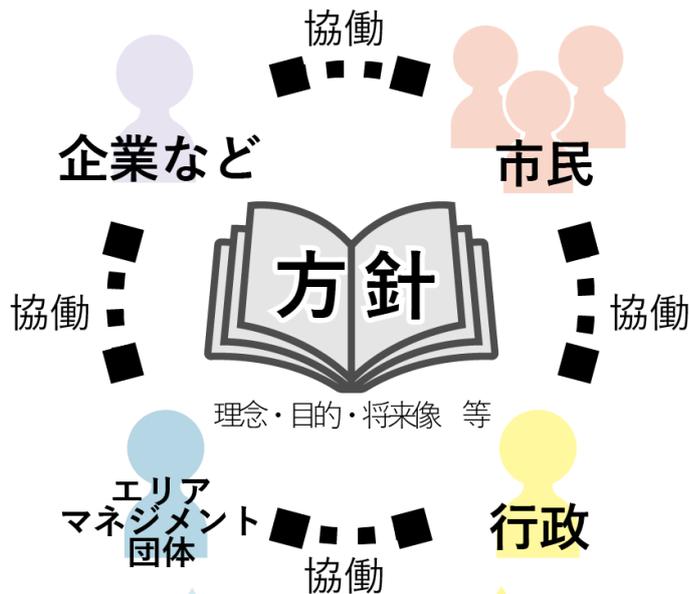
第6章 取組の推進にあたって

市民・企業・行政などの協働

- はぐくみの軸の将来像を実現していくため、まちづくりに関わる市民、企業、行政などが本方針を共有し、協働して取組を進めていく

- 本方針に沿って建物の建替を計画する
- 本方針に沿って既存建物の改修を行う
- 本方針に沿って都市空間の活用を行う
- 将来像実現に向けた活動や議論に主体的に参加する

- はぐくみの軸に愛着を持つ
- はぐくみの軸の魅力を国内外に発信する
- 将来像実現に向けた活動や議論に主体的に参加する



- 地域の価値を維持・向上させるため、市民・地権者等による主体的な取組を推進する
- まちづくりの担い手を育成する

- 市民・企業などに対し本方針の積極的な周知啓発を行う
- 札幌市の行政計画への本方針の考え方の反映や、本方針に基づく事業構築・制度の見直しなど、率先して将来像実現に向けた取組を推進する など

段階的・総合的な取組の展開

- 札幌市は、まちづくり勉強会といった初期段階から地域主体の取組に関与し、**実験的な手法も交えて課題や効果を検証しつつ、地区計画などの都市計画制度の活用を図りながら、段階的・総合的に取組を展開**していく
- 将来像の実現には、道路・交通・景観・環境・防災など関連する施策に総合的に取り組みながら、特に大通公園という札幌都心を象徴する広大なみどりの空間を有していることから、**まちづくりとみどりづくりを一体的に推進**していく

お問い合わせ

札幌市まちづくり政策局政策企画部都心まちづくり推進室都心まちづくり課

札幌市中央区北1条西2丁目（札幌市役所本庁舎5階南側）

電話：011-211-2692 FAX：011-218-5112

メール：ki.downtown@city.Sapporo.jp

詳細版はホームページで公開しています▶▶▶▶

はぐくみの軸強化方針

検索



さっぽろ市
01-802-23-2063
RS-1-142